

甚右衛門は實在した人物に相違あるまい。天正四年石川郡鷹巢城主であつた平野神右衛門も亦同人であらうといふ。↓ジンエモンザカ甚右衛門坂。

ヒラノチブザエモン 平野治部左衛門 初めて松任に於いて前田利長に任へ、祿加増とも二百二十石に至り、寛永六年歿した。子孫藩に世襲する。

ヒラノハチマンジンシヤ 平野八幡神社 鳳至郡平野に鎮座し、貞享二年の書上に平野村八幡宮とあり、文政社號帳には、修理等は平野・此木兩村にて行ふとある。

ヒラノフ 平信 加州住の一代鍛冶。
ヒラノヤハンスケ 平野屋半助 金澤の町人。由緒書によれば、元祖半助は河内國平野の者で、本姓山岸氏。上方に於いて前田利家から用命を受けてゐたが、後金澤に來り、尾坂下の中町で屋敷を賜はり、慶長七年二月歿した。二代半助道知は利常から上使宿を命ぜられ、寛永十年六月歿。三代半助も上使宿を勤め、その子三十郎は小々將となり山岸氏を稱した。四代半助以後代々町年寄を勤めた。

ヒラノヲカエモン 平野岡右衛門 祿三百五十石。安藝侯淺野吉長夫人附の物頭並を勤め、寶永七年閏八月七日その櫻田御賃小屋に於いて、淺野家よりの附人同役小足源太兵衛を打果して切腹した。

ヒラハツケイ 比良八景 鳳至郡比良の景勝を數へたもので、住吉社頭の櫻花・沖名子の杜鵑・鳥居崎の夕立・幽谷山の月などであるが、今その凡べてを傳へぬ。

ヒラフ 平夫 ↓ブギン 夫銀。

ヒラマツ 平松 石川郡中村郷に屬する部

落。

ヒラマツイヘエ 平松伊兵衛 父は織田信長の臣平松與右衛門の子佐久間清右衛門であるが、清右衛門は佐久間信盛の養子であつた爲同氏を肩したのであつた。伊右衛門は慶長十九年前田利常に仕へて四百石を領し、延寶六年に歿。子孫藩に世襲する。

ヒラヤマ 平山 ヤマ 鳳至郡藤瀬の内の小字。
ヒラワタリ 平渡 ワタリ 鳳至郡中齋の内の小字。
ヒラワン 比良灣 鳳至郡中齋の東部、鳥居崎から松崎に至る間を、特に比良灣と呼ぶことがある。

ヒラキイヘモト 平井家元 平井氏は世々金澤郊外泉野に住して但馬守を受領した鎧物師で、その家系は家元・家長・家永・家次・伊永と相繼いだものゝ如くである。現存の作品に就いて言へば、家長は萬治元年、家永は元祿元年・元祿三年、與四兵衛家次は元祿十二年・寶永三年・正徳四年、伊永は享保十九年・元文五年等にその名が見える。

ヒラキキチザエモン 平井吉左衛門 初め吉永。祿三百石。元文四年二月十八日若鷲石川政右衛門等徒黨を企て、吉左衛門を殺したが、忽ち露顯し、七月廿一日中田茂左衛門・高桑忠右衛門・吉村淺右衛門・小者時内・浪人某等悉く磔刑に處せられ、平井氏は斷絶した。

ヒラキクロザエモン 平井九郎左衛門 前田利常の時の御歩で、造園を好み、山作九郎左衛門といはれたが、寛永十一年金澤城玉泉院丸に露地作りの盛況を極めることを聞いて發狂し、大童に頭髮を撫付け、丸腰で柿色帷

子を著し候の前に出た。依つて之を捕へ、座敷牢に檻禁し、食を斷つて餓死せしめた。

ヒラキジロベエ 平井次郎兵衛 寛永十四年前田利常に仕へ、三百石を領し、元祿四年歿。子吉左衛門の時家斷絶した。

ヒラキフクサイシコウ 平井復齋詩稿 一冊。大聖寺の人復齋平井元直の時二百九十二首を集めたもので、大正二年その孫平井松二郎の編する所。前田利常の題辭と吉田醇一の序とがある。

ヒラキモトナホ 平井元直 大聖寺藩士。通稱五郎左衛門、老して無人と改めた。號は復齋。知行八十石。江守長順を師として學び、頗る經史に通じたが、資性謙讓にして閑達を求めなかつた。元直郡奉行・作事奉行を経て、弘化元年六月近習侍讀、安政二年二月足輕頭格會頭示談相手、四年正月時習館用掛となり、明治元年二月終に時習館會頭に進み、學校の増設に際して特に力を致した。二年正月病を以て職を罷め、三年十二月二十五日歿。享年六十七。温樹秘録・復齋詩稿の著がある。

ヒラキモリトモ 平井盛倫 諱は盛倫、字は伯明、通稱治右衛門、南郷と號する。最も鎗劍を能くし、門人甚だ多かつた。天明四年三月二日四十九歳で歿。

ヒララカシマスケ 平岡志摩助 元和三年前田利常に仕へて祿千石を受け、御使番・足輕頭に任じ、七年に歿した。その子志摩助正親家を襲いで九百石を受け、寛永十七年利常の隠栖に小松に従ひ、萬治元年三月廿四日歿。子孫藩に世襲する。

ヒララカチカヨリ 平岡親仍 五左衛門と稱した。村田半助の二子で、志摩助正親の嗣

子となつたもの。祿九百石。大小將親に班し、同番頭から漸く進んで定番頭に至り、元祿七年九月廿三日六十三歳を以て歿した。

ヒララカノ 平岡野 源平盛衰記寛永二年に「源氏は左右なく追掛けず、押違て陸地に懸て加賀國平岳野の木立林に陣を取る。」又應安二年十二月得田加賀介章房の軍忠狀に「北國爲御退治御下向之陣、桃井中務少輔己下凶徒加州平岡野陣取。」とある。今石川郡に南廣岡村・北廣岡村があるものは是であらう。

ヒララカノコダチバヤシ 平岳野木立林 ↓コダチバヤシ 木立林。
ヒララカノジンシヤ 平岡野神社 石川郡廣岡に鎮座する。式内等舊社記に「平岡野神社。廣岡村鎮座。號山王林。舊社也。」と見え、眞言宗顯証院がその別當であつた。もと廣岡山王社と稱したが、明治元年廣岡日吉社と改め、七年又平岡野社とした。藩政の時その山王祭は毎年四月申の日に催され、神幸甚だ莊嚴であつた。當社に愛染明王塔婆圖繪一舖を藏し、その添書に「奉圖繪・愛染明王塔婆一舖。志趣者沙彌賢觀並女大施主。同源高氏御息災延命增長壽福。殊今度御上洛安穩泰平故也。元應元年七月十一日。永徳二年九月廿日修補之。」聖蹟上人。願主成□。右筆重然。」とある。賢觀及び高氏は佐々木氏(京極氏)であるが、高氏即ち道譽がこの年上洛した事實と、この圖繪が顯性院に傳はつた子細とは明らかでない。

ヒララテイ 平尾邸 江戸の加賀藩邸。延寶七年二月幕府より六萬歩を受け、三月之が代地として駒込邸の内二萬歩を幕府に納れた。八年平尾邸に接續する平尾村等の百姓地